

第九節 昭和六年

昭和六年度東京美術學校年報

甲 款

概況

昭和六年四月五日本科選科及特別學生入學許可者ノ氏名ヲ本校内ニ揭示發表シ同月二十一日官報ニ掲載セリ

同年同月十三日新入生徒ノ入學式ヲ行フ

同年七月六日ヨリ九日ニ至ル四日間各本科三年五十六名圖畫師範科三年十二名富士瀧河原陸軍廠舎ニ行軍シ野營演習ヲ実施セリ

同年十月四日本校設置記念日ナリシモ都合ニヨリ繰下ゲ十一月四日記念式ヲ行フ

同年十一月二十七日午前九時ヨリ本校運動場ニ於テ各本科並ニ圖畫師範科生徒ノ査閲実施セラレ

昭和七年三月二十四日午前十時ヨリ本校第四十一回卒業式ヲ行ヒ例ニ依リ卒業製作並ニ工藝部成績品ヲ別室ニ陳列シ來賓ノ觀覽ニ供シ翌二十五日廣ク本校関係者及有志等ニ觀覽セシメタリ

本年度内ニアリテハ創定又ハ改正セラレタルモノナシ

職員

本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十八人生徒主事一人助教教授十八人書記五人生徒主事補一人囑託講師十五人同教員九人

規程

本年度内ニアリテハ創定又ハ改正セラレタルモノナシ

職員

本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十八人生徒主事一人助教教授十八人書記五人生徒主事補一人囑託講師十五人同教員九人

規程

本年度内ニアリテハ創定又ハ改正セラレタルモノナシ

職員

同醫師一人副科囑託三人教務囑託二人事務囑託三人教務雇六人事務雇九人ニシテ前年度ニ比スレバ教授一人助教教授二人書記二人ヲ減シタルモ事務囑託ニ一人人事務雇ニ一人ヲ増セリ

生徒

全体ニ於ケル生徒ノ學力操行健康ノ狀態ハ前年度ニ比較シテ大差アルヲ認メズ 新入學生徒ニアリテモ大要亦同様ニシテ特ニ標舉スベキ事情ナシトス

本年度入學者ハ本科百三十五人選科三人特別學生三人(支那人)

圖畫師範科二十五人研究生四十六人ニシテ其入學者ノ學力程度ハ

本科生ニアリテハ官公立中學校卒業者七十八人私立中學校卒業者

四十人師範學校卒業者二人工業學校卒業者二人工學藝校卒業者五

人商業學校卒業者三人農業學校卒業者一人私立大學豫科一年修了

者四名ナリ 選科生ニアリテハ中學校未卒業者一人東京府工藝學

校選科卒業者一人高等小學校卒業者一人ナリ 特別學生ニアリテ

ハ中華藝術大學卒業者一人廣州美術專門學校卒業者一人上海南國

藝術學校卒業者一人ナリ

圖畫師範科生ニアリテハ官公立中學校卒業者十六人師範學校卒業

者八人工業學校卒業者一人ナリ 研究生四十六人ハ何レモ本校卒

業者ノ入學シタルモノトス

新入學生徒ノ年齢ハ本科生ニアリテハ最高二十八年四月最低十

八年九月月ニシテ平均二十一年三月月ナリ 選科生ハ最高二十五

年一ヶ月最低二十一年四月月平均二十三年四月月ナリ 特別學生

ニアリテハ最高二十五年二月月最低二十二年四月月平均二十四年

ナリ 圖畫師範科生ハ最高二十七年一ヶ月最低十八年九月月平均

二十一年四ヶ月ナリ 研究生ハ最高三十二年十ヶ月最低二十二年十ヶ月ニシテ平均二十七年ナリ

生徒ノ入退學ニ就テハ本年度入學者百三十五人選科三人特別學生三人圖書師範科二十五人研究生四十六人再入學者一人ナリ 退學者ハ病氣退學六人家事係退學十三人除名處分ノモノ二十九人死亡六人研究生在學資格消滅十五人轉科二人除籍處分ノモノナシ之ヲ前年度ニ比較スレバ入學者ハ本科生ニ二人研究生二十三入ヲ増シタルモ選科生ニ二人特別學生ニ二人ヲ減シ圖書師範科生ニハ増減ナシ 退學者ニアリテハ病氣退學ニ三人除名處分ニヨルモノ十二人研究生在學資格消滅ニ二人轉科ニ一人ヲ増シタルモ家事係累退學ニ八人ヲ減シ其他増減ナシ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度ニ比スレバ日本畫科ニ五人西洋畫科ニ八人彫刻科ニ四人金工科ニ四人研究生ニ五人ヲ増シタルモ選科生ニ十七人特別學生ニ六人ヲ減シテ全体ノ差引ノ結果ハ二人ノ減少ヲ示セリ

右各科中日本畫科、西洋畫科、彫刻科、金工科ノ増加シタルハ前年度ニ於ケル退學者ノ本年度ヨリ多カリシ爲ニシテ全体ヨリ見テ差引二人ノ減少ヲ示セルハ選科生及特別學生入學者ノ激減ニ依ル本年度ノ卒業生ハ本科百人選科十七人特別學生七人圖書師範科十二人ニシテ計百四十六人ナリ 前年度ニ比シテ一人ヲ増セリ

生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ選ビ本校規則第二十六條ニ依リ特待生トナシ昭和六年四月一日ヨリ一學年間授業科ヲ免除セシモノ三十一人アリ 之ヲ前年度ニ比スレバ一人ヲ減セリ 圖書師範科生徒ニハ前年度ニ於ケルト同一方法ニ依リ學術又ハ技藝ノ優

秀ナルモノニ等差ヲ付シテ獎勵金ヲ給與セリ 即チ昭和六年六月十二日及十月二十六日ノ二回ニ同科生徒ノ競技會ヲ催シ其成績ヲ考查シ優秀ナルモノニ獎勵金ヲ付與シタリ

昭和七年三月末卒業スベキ各本科並ニ選科生徒四十三人ノ実地修學ノタメ本年度ノ初四月六日ヨリ二十二日迄十七日間生徒主事一人助教三人講師二人雇一人之ガ引率又ハ附添ニ任シ奈良、京都、和歌山、三重ノ一府三縣ニ出張シ著名ナル神社、仏閣等ヲ歴觀シテ美術上ノ實地研究ヲシタリ

同ジク昭和六年三月末卒業スベキ圖書師範科生徒二十二人ヲシテ実地教授法視察研究ノ為本年度初四月二十四日ヨリ五月三日迄十日間助教一人之ヲ引率シ愛知、京都、大阪、奈良ノ二府二縣ニ出張シテ視察研究ヲナサシメタリ

本校ニ於テハ生徒皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シ申報スベキ事項ナシ
 將來施設上重要ト認ムル件
 女子部新設ノ件〔大正十年度以降報告と〕〔ほぼ同文につき省略。〕
 雜件
 生徒実験ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノノ中重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依頼製作一覧

品目	數量	受託年度	竣工年度	依頼者
花盛品	貳個	昭和六年度	昭和六年度	農林省
銀製香爐	貳個	同	同	全國市長會長
花盛器	貳個	同	同	農林省

花盛器	式個	同	農林省
議院本館正面玄関外ブロンズ枠及扉	式式	昭和五年度	大蔵省營繕局
議院本館漆乾塗	式式	同	同
同 漆乾塗上	式式	昭和六年度	同
同 漆乾塗上	式式	同	同
議院本館大臣室外ブロンズ枠及扉	式式	同	同

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

學校近事 〔二九一七〕^{卷号} S・六・一^{年月}・二七^日

○職員辭令

昭和五年十二月十五日

(各通)

敘正六位(宮内省)

同年同月十七日

除服出仕

同年同月二十三日

東京美術學校助手ヲ命ス 工藝化學教室勤務ヲ命ス

(各通)

依願解囑

講師 板垣 鷹穂
同 田中 豊藏

教授 大島勝次郎
同 津田 信夫
同 清水 龜藏
同 矢代 幸雄

助手 深瀬 嘉臣
安倍 郁二

昭和六年一月九日

中華民國へ出張を命ス(文部省)

學校長 正木 直彦

正木〔直彦〕校長の支那出張

正木校長は文部省より中華民國へ出張を命ぜられ一月十日の夜東京驛より出發十二日神戸港にて乗船し一路上海を指して禹域の征途に上られたり 隨伴同行者は校長令息篤三學士と畫家渡邊晨敏の兩氏なり 出張の用向は外務省文化事業部の委囑にて先年東京に開催されたる支那唐宋元明四朝の古畫展覽會の第二回を今春東京に開くに就いて其の出展古畫を鑑閲せらるゝ爲にして民國の畫家美術家は勿論多數の學者や名士とも接見せらるゝべく自から日華親善の氣運を増進するに多大の貢獻を致さるゝことゝ想察せらる 民國現下政界の首腦人物たる蔣介石氏張學良氏とも會見さるゝ豫定との由なり 尙校長の歸還は二月下旬頃なるべし

北伊豆地方震災義捐金

北伊豆地方震災義捐金として金七拾五圓五拾四錢(内金參拾圓校友會より支出)を職員生徒一同の名義を以て社會局の手を経て〔昭和五年〕十二月十八日釀出の上送付せり(職員及生徒常務委員にて取計ひたり)

學校近事 〔二九一八〕 S・六・三・二七

○職員辭令